

V-3

知的障がい教育

(1) 知的障がい特別支援学級

知的発達の遅滞があり、日常生活を営むのに一部支援が必要で、他人との日常会話はほぼ可能ですが、他人との意思疎通に軽度の困難さがある児童生徒が対象です。

コミュニケーションの基礎的な能力の活用を促す学習などを通して、自分の意図を伝えたり相手の意図を理解できるようにすることや、基本的な生活習慣の確立、日常生活に必要な言語や数量などの指導を行います。

(2) 指導に当たっての考え方

知的障がいのある児童生徒は、学習によって得た知識や技能が断片的になりやすく、実際の生活の場で応用されにくいことや、成功経験が少ないことなどにより、主体的に活動に取り組む意欲が十分に育っていないことがあります。

また、実際的な生活経験が不足しがちであることから、実際の・具体的な内容の指導が必要であり、抽象的な内容の指導よりも効果的です。コミュニケーションが苦手、人と関わることに消極的になることがあるため、自分の考えや要求が伝わったり、相手の意図を受け止めたりする双方向のコミュニケーションが成立する成功体験を積み重ねることができるよう指導することが必要です。

(3) 教育課程の編成に当たって

小・中学校等の教育課程に準ずることが原則となりますが、学級の実態や児童生徒の障がいの状態等を考慮の上、各教科の目標や内容を下学年の教科の目標や内容に替えたり、対象となる児童生徒の知的障がいの状態等によっては、各教科を知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えたりするなどして、実態に応じた教育課程を編成することができます。

児童生徒の学校での生活を基盤として、学習や生活の流れに即して学んでいく、日常生活の指導、遊びの指導、生活単元学習、作業学習などの「各教科等を合わせた指導」が、効果的な場合があります。

指導のポイント

- 生活に結び付いた具体的な活動を学習活動の中心に据え、実際的な状況下で指導するとともに、できる限り児童生徒の成功体験を豊富にすることが大切です。
- 児童生徒一人一人が集団において役割が得られるよう工夫し、その活動を遂行できるようにするとともに、活動後には充実感や達成感、自己肯定感が得られるように指導をすると効果的です。
- 児童生徒の興味や関心、得意な面に着目し、教材・教具、補助用具やジグ等を工夫するとともに、目的が達成しやすいように、段階的な指導を行うなどして、児童生徒の学習活動への意欲が育つよう指導します。

事例

知的障がい特別支援学級における児童の実態の差に配慮した各教科等を合わせた指導の取組

児童の実態

小学校第4学年、第5学年の5名の学級である。簡単な言葉によるコミュニケーションができ、自分の気持ちを文字で表現できる児童や、発語が難しい児童もいる。初めての活動では、場所や活動内容等を事前に示すことにより、落ち着いて参加することができるようになってきている。

「生活単元学習」学習指導案

題材名	「遠足に行こう」		
ねらい	- 身近な社会の仕組みや、遠足で行く公共施設の使い方などを知る。 - 教師の話を理解し、簡単な事柄と語句などを結び付けたり、語句などから事柄を思い浮かべたりする。		
時間	学習内容	手立て	各教科との関連
10:30	1 はじめのあいさつ 2 読み取りクイズ 「おはなし できるかな」を見て答える。	生活の場面を表した絵カードから、何をしているか問う。	視覚的な支援を活用 
10:35	3 遠足について (1) 遠足すること - 学校と目的地を結ぶ道順を示した拡大地図を見て、行き先を考える。 - 行き先までの時間や、出発時刻及び到着予定時刻について確認する。 ・遠足の行き先での活動を絵カードから選択して貼ったり、文字で書いたりして予定表を作成する。 (2) 気を付けること - 移動時や施設利用時の安全やマナーについて、動画と静止画を見て確認する。 - 約束を読み上げ、確認する。	- 拡大した地図を示し、行き先や活動を確認させる。 （児童A、D：前面の電子黒板に注目するように言葉掛けする。 - 児童B、C：注目すべき点を強調して示す。 （児童E：選択肢を示し、指差して選択させる。） ・実態別の予定表の見本を示す。 （児童A、D：写真を見て文字を書き込む。 - 児童B：写真と台紙の空欄の形をマッチングして貼る。 （児童C、E：写真カードをホワイトボードに貼る。） ・施設利用時のマナーについて発問し、言葉を引き出したり、良い行動のイラストを選択させたりする。 ・約束を書いて掲示する。	生活、算数 それぞれの児童が自己選択できる支援 国語 モデルの提示 個別の指導計画を基に、個別の支援を記載 国語
11:15	4 まとめ - 持ち物リストの配付 - 本時のまとめ、振り返り - おわりのあいさつ	- 配付物を入れる箱を色分けして示す。 - 作成した予定表を確認する。	言語活動の充実

【取組のポイント】

- 各教科等とのつながりを意識して、学習内容や手立てを検討する。
- 視覚的な支援、モデルの提示、言語活動の充実など、一人一人の知的障がいの特性や児童の実態に応じて手立てを設定する。

【成果と課題】

- 個に応じた支援を設定することにより、実態に差がある児童の集団でも学習内容を共有することができた。
- ▲ 各教科等を合わせた指導においては、児童に身に付けさせたい資質・能力と、合わせている各教科等のねらいを明確にする必要がある。